日本語の「深」と中国語の“深”における認知的対照研究

徐　蓮

1. はじめに

〈深〉は基本的な空間次元概念として、日本語においても中国語においても広く日常的に使われている。日本語の「深」は中国語の“深”と同源同形であるが、意義構造で一致していないところが多い。まず次の用例を見てほしい[1]。

(1)宇治の水は深い。(越前竹人形)

(2)这本书很深。/この本はとても難しい。(中日日中辞典)

(3)この古酒には深い香りと味わいがある。(明鏡国語辞典)

例(1)の「深い」は水の表面から底までの距離が長いという空間的な意味を表す。例(2)はもはや空間ドメインを離脱し、「難しい」という意味になる。例(3)では、「深い」は臭覚や味覚ドメインに拡張し、「香りや味わいが強い」という意味になる。例(2)(3)はいずれも基本的意義からの派生的意義である。また、例(2)(3)は中国語、日本語それぞれ独自の使い方で、〈深〉の両言語での意義拡張が違うことが見られる。

2. 先行研究と残された課題

日本語と中国語における〈深〉についての研究は数少ない。森田良行（1977）と飛田良文・浅田秀子（1991）を代表とする伝統的な研究は多義語の意義記述に限られており、各意義項目の間の関連と意義の拡張プロセスが分からないままである。1980 年代から、認知意味論による多義語の意義分析が盛んに行われるようになった。例えば、胡琳（2007）、任永军、滕向农（2001）、王红娟（2006）の意味拡張についての研究、〈深〉と〈浅〉の非対称現象研究（郝玲, 2006）、通時的考察（孔李茜, 2008）および対照研究（陈娜, 2008; 束定芳, 2009）などが見られる。

しかし、〈深〉をめぐる研究にはまだ大きな課題が残されている。大部分の言語に存在している〈深〉の概念がどの程度まで共通しているのか。また、どの部分が文化的条件が付けられているのか。同形同源の日本語と中国語の〈深〉から認知的相違を見つけられれば興味深いことになるが、日中対照研究はまだ空白状態である。本稿では、対照研究を通し、〈深〉の意義ネットワークを明らかにするうえで、日本語と中国語における〈深〉の類似と相違を究明していきたいと思う。

本稿で扱う〈深〉とは、「深」“深”の漢字を含めた表現、また〈深〉の意義をもつ「ふか」「み」「しん」などを含めた表現である。固有名詞（深圳など）は含まない。なお、同形語の紛れを避けるため、日本語の「深」を「　」に、中国語の“深”を“　”に入れることにする。同形語が同時に論じられる場合、〈　〉に入れることにする。

3. 〈深〉の意義構造

3.1 中心義の認定

意義拡張の出発点を求めるには、〈深〉の原義を辿り探さなければならない。「深」が中国語に語源を求めることから、まず“深”の語源を考察した。その結果、“深”はそもそも川の名前であった。その川が“湘水”の支流で、現在は“潇水”と呼ばれ、その一部は現在でも“深水”と呼ばれている。[2] しかし、北京大学中国語言語学研究センターの通時的コーパスに基づく考察によれば、この意義の“深”の例文が出ていない。そのことから、“深”の原義は広く使われていなかったことが分かる。当コーパスによれば、“深”の複数の意義項目の中で、水面から水底までの距離が長いという意義の使われ方が一番古くからのものであった。西周時代にはもう広く使われていたという。川の名称からその属性への拡張は隣接性に基づくものであるから、メトニミーによるものである。

日本語と中国語の権威辞書[3]で考察した結果、〈深〉の複数の意義項目の中で、水面から水底までの距離が長いという意義は他の意義を理解する上での前提となり、具体性が高く、認知されやすく、想起されやすく、意義展開の接点となることが最も多い。また幼児の言語習得に関する村井（1970）の研究によれば、この意義が他の意義より習得が早い。中心義となる基準を最も数多く備えていることから、典型的な中心義と見なせる。[4]

3.2 認知意味論による意義記述

日本語と中国語の権威辞書を参考に、〈深〉の各意義項目を次のようにまとめる。[5]

表 1 〈深〉の意義項目

意義項目	日本語「深」	中国語“深”
①水面から水底までの距離が長い	深い海	深渊
②上下の距離が長い	深い谷	深耕
③境界から奥までの距離が長い	傷跡が深い	深山
④互いに独立している実物が密集している	毛深い足	深林
⑤色が濃い	深い緑色	深红
⑥暗い	深い陰	树荫深浓
⑦匂い・香りが強い	深い香り	——
⑧味が強い	味が深い	——
⑨事の始まりから時がかなりたっている	深夜	深秋
⑩顕著	興味深い	印象深刻
⑪難しい	—	艰深
⑫本質に達する	深い意味	深刻认识
⑬密接である	深い仲	交情深
⑭内心的な	深く隠れる	心灵深处
⑮音声が低い	深い声	声音深沉
⑯たくさん注意を払う	深く注意する	深信
⑰感情が強い	深い感動	深情

3.3 意義拡張の分析

吉村（2004）によれば、意義拡張はおよそ空間→時間→状態（変化）→心理という順で進んでいくという。吉村の理論に基づき、〈深〉の各意義項目を再整理してみる。

表 2 〈深〉の意義構造

Ⅰ[空間]
1. [距離] 巨視的空間
(1) [水の距離] ……①
(2) [上下距離] ……②
(3) [内外距離] ……③
2. [密度]　微視的空間
(1) [密度] ……④
(2) [感覚] 感覚上の密度
A　[視覚]
a [色調] ……⑤
b [光度] ……⑥
B　[臭覚] ……⑦
C　[味覚] ……⑧

Ⅱ[時間] ……⑨

Ⅲ[状態]
1. [顕著度] ……⑩
2. [難度] ……⑪
3. [本質度] ……⑫
4. [関連度] ……⑬
5. [公開度] ……⑭

Ⅳ[心理]
1. [感覚]
(1) [視覚]
A　[色調] ……⑤
B　[光度] ……⑥
(2) [臭覚] ……⑦
(3) [味覚] ……⑧
(4) [聴覚] ……⑮
2. [思考強度] ……⑯
3. [感情強度] ……⑰

〈深〉の意義拡張は、身体的にとらえやすい空間把握から、次第に抽象的・理知的な領域に進行する。空間・時間・状態・心理といった幅広いドメインに拡張している。

3.3.1 空間ドメイン

（一）上下の距離（意義②）

(4)穴は、深く、暗かった。（砂の女）

(5)乔奶奶是个开通人，格格笑着，深一脚，浅一脚地走了。/喬婆さまはさばけた人なのでケラケラ笑いながらヒョッコヒョッコと帰って行った。（丹凤眼）

例文では、穴や足の移動する鉛直距離が長いことは〈深〉で表す。内容物→容器というメトニミーに基づき、容器の属性（上下の距離が長い）を表すようになる。

（二）内外の距離（意義③）

(6)丑松は深い溜息を吐いていた。（破戒）

(7)养在深闺人未识。/養われて深閨に在り、人未だ知らず。（活动变人形）

例文では、人間の体や部屋は容器に見なされ、境界から奥までの距離が長いことは〈深〉である。

（三）実物の密度（意義④）

(8)朝じめりのした街道の土を踏んで、深い霧の中を辿って行った。（破戒）

(9)这个宁静的深林，雨后格外清新。/雨がやんで、この静かで深い森は特に清新だ。
（http://www.wenxuewu.com/files/article/html/118/118360/4660666.html）

密度は物と物の間の距離を表すので、微視的な空間関係とみなすことができる。例文では、〈深〉は霧の水の玉や木の密度を表す。上述の意義拡張と違い、川に深く潜ると暗くなるという経験から、意義①はまず意義⑥に拡張している。〈深〉は影や陰などの暗

さを表すようになる。例えば、

(10)杏の老木が深ぶかとおとす影のなかを走った。（飼育）

(11)梧桐，落叶乔木，树荫深浓，主干端直，树皮光滑，灰绿色。/梧桐は落葉喬木で、陰が深く、樹幹がまっすぐであり、樹皮がすべすべであり、色がライム・グリーンである。（http://www.cngreen.net.cn/flower/ZSYD_Detail.asp?ID=253）

また、木の密集している所も暗いので、この暗さを通し、意義①と意義④が関連付けるようになる。ここから、密接は〈深〉であるスキーマが生じる。

（四）感覚上の密度（意義⑤⑥⑦⑧）

(12)玉枝は舟板に手をつかえ、紫いろの深まってゆく川面がせり上ってくるのをみつめたまま気を失った。（越前竹人形）

(13)我上下打量他一回，看见他的裤脚接了一截，颜色比原来的深。/私は上から下まで彼を眺め回し、ズボンの裾が継ぎ足してあるのに気づいた。色がもとのものより濃い。（插队的故事）

(14)この古酒には深い香りと味わいがある。（明鏡国語辞典）

密度は五感によって感じられる。顔料の分子は密度が高くなると、色が濃くなる。香りや味の分子の密度が高くなると、香りや味が濃くなる。これらの拡張は水の深いところが色が濃い経験や、花や食べ物に密接すると、香りや味が強くなる経験によるものである。意義⑤が意義①から、意義⑦⑧が意義④から拡張されている。

3.3.2 時間ドメイン（意義⑨）

(15)冬が深まるにつれて彼女の目は前にも増して透明に感じられるようになった。（ノルウェイの森）

(16)可是，现在，在这黑暗的深夜里只有她一个人。/いまは、このまっ暗な夜ふけに、たったひとりなのだ。（青春之歌）

時間は抽象物で直接に五感で感知できないので、よく空間概念によって表される。意義⑨は意義③から拡張していると思われる。事の始まりの時間点を空間的な境界と見なし、時間がたつにつれ容器の奥へ行く。例文では、夜、春夏秋冬などの季節は容器に見なし、その容器に入る距離が長いことは〈深〉である。

3.3.3 状態ドメイン

（一）顕著度（意義⑩）

(17)江藤は自分の罪のふかさを感じていた。（青春の蹉跌）

(18)在国际和国内的种种矛盾也会随之加深。/また、数々の国際的、国内的矛盾も深まる。（我的父亲邓小平）

川が深ければ水の量が多く目立つという経験から、多いこと、また著しいことは〈深〉で表す。

（二）難度（意義⑪）

(19)上次从你这里借去的读本，我还觉得深了一点呢！/このまえお借りした本なんか、あたしには少し難しすぎるようなんですけど。（霜叶红似二月花）

川に潜る場合、深ければ深いほど難しくなる経験から、“深”が難しいことに関わるようになる。

（三）本質度（意義⑫）

(20)丑松は復たそこへ倒れて、深い睡眠に陥入った。（破戒）

(21)第二是认识有待于深化……/ 第二の点は、認識は深化させていくべきであり、…（毛泽东选集第一卷）

川に深く潜ると、河床の真の姿が見えるようになる。この経験に基づき、本質に近づくことを〈深〉で表す。

（四）関連度（意義⑬）

(22)スキイに行った先の宿で深い関係になってからは、それが一層はげしかった。（青春の蹉跌）

(23)到了掌灯以后，客人陆续的散去，只有十几位住得近的和交情深的还打麻将来。/日が暮れると、客たちはつぎつぎに帰ってゆき、近所の者ととくに親しくしている十二、三人が残って麻雀をやっているだけになった。（骆驼祥子）

例文では、男女や友人関係が密接であることを〈深〉で表す。親しければ自然に物理的な距離も短くなり、密接になる。つまり、密度が高くなる。この意義⑬は意義④から拡張してきたことが明らかである。

（五）公開度（意義⑭）

(24)万事深く蔵んでいるような丑松に比べると、親切は反って文平の方にあるかと思わせる位。（破戒）

(25)说到最后，赵微土笑起来了，不知道他是玩笑，还是用表面的玩笑掩盖更深层的激动。/と言って、趙微土はチラと微笑を浮がべ、冗談か、それとも胸の奥の感動を冗談のベールに包んでいるのか。（活动变人形）

例文では、心は容器と見なされ、内心的なものは〈深〉で表される。

3.3.4 心理ドメイン

（一）感覚（意義⑤⑥⑦⑧⑮）

視覚・臭覚・味覚などの感覚は空間ドメインの密度が心理ドメインへの写像として捉えられるので、この二つのドメインに跨っていると思われている。聴覚ドメインでは、低い音声は〈深〉で表す。例えば、

(26)喉を引き下げて、深い声を出すには、息を吐くときの体と喉の使い方にコツがあります。（http://love.ap.teacup.com/basso777/979.html）

(27)在几秒钟的筹备工作之后，这台发动机爆发出了深沉的声音。/数秒間の準備の後、このエンジンは低い音がした。（http://wangmfdwp.blog.163.com/blog/static/1

2678442320098133582857/）

意義⑮は意義③に基づいて拡張してきた。人間が声を出す場合、発声部が深ければ深いほど、つまり境界である口からの距離が長ければ長いほど、声が低い。この経験から、機械などが音を出す場合も、音が低いことを〈深〉で表すようになる。

（二）思考強度（意義⑯）

(28)大貫さんは用心深いからね。（あした来る人）

(29)可是这一封信不比寻常，一定要经过深思熟虑。/この手紙はいつもとちがって、じっくり考えなければ。（人啊，人）

用心、注意、思考、意識などは容器に見なされ、脳の働きが激しければ〈深〉で表す。川に潜り、深いほうへ行けば、筋肉の働きが激しくなる。この経験から、脳の働きの激しさは〈深〉で表すようになる。

（三）感情強度（意義⑰）

〈深〉は感情ドメインに写像され、感情が強いことは〈深〉である。例えば、

(30)自分が…この世の他の何者よりも深く烈しく愛していることを感じていた。（あした来る人）

(31)我悄悄地注视着它，一动也不敢动，深怕惊飞了这可爱的小小舞蹈家。/私は、じっと息を殺して蝶を見つめた。この可愛い小さな踊り子を驚かさないように。（轮椅上的梦）

3.4 意義ネットワークの構築

〈深〉は中心義からメタファーとメトニミーを通し、いろいろなドメインに写像され、多くの意義へ拡張していく。その意義構造を図で表すと次の通りである。

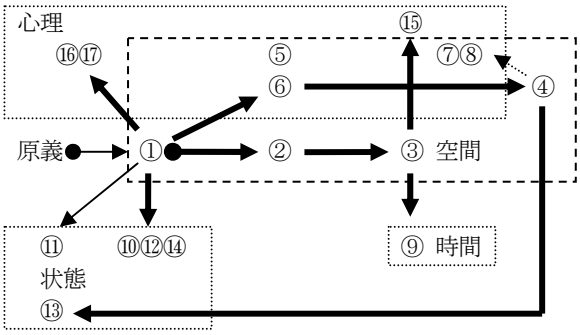

図１ 〈深〉の意義ネットワーク

太い矢印➡：日本語と中国語の共通している拡張；
実線の細い矢印→：中国語の独自の拡張；
点線の細い矢印⇢：日本語の独自の拡張；
端に黒い丸が付いている矢印●→：メトニミーによる拡張；
端に黒い丸のない矢印：メタファーによる拡張。

拡張手段：主にメタファーによって拡張している。原義から中心義①への拡張と①から②への拡張だけがメトニミーによる。

目標ドメイン：空間ドメインから、時間ドメイン、状態ドメインと心理ドメインの三つのドメインへ拡張している。

拡張プロセス：原義からメトニミーを通し、意義①へ拡張する。そして、意義①を中心義として、意義②、⑤、⑥、⑪（中国語のみ）、⑩、⑫、⑭、⑯、⑰へ拡張する。それから、意義②が③へ拡張している。③からさらに⑨と⑮が派生される。また、⑥から④へ、④から⑦⑧（日本語のみ）と⑬へと拡張が次々と進んでいる

「深」と“深”の共通点と相違点：大体同じプロセスによって拡張しているが、「深」には④から⑦⑧へ、“深”には①から⑪への拡張がある点で異なっている。

4. まとめ

以上、日本語と中国語における〈深〉の意義構造を認知意味論的な視点から考察した。〈深〉の意義ネットワークを明らかにしたうえで、日本語と中国語における〈深〉の類似点と相違点を示した。紙幅の関係により、〈深〉反対概念である〈浅〉についての考察は別稿に譲ることにする。また、〈深〉－〈浅〉の非対称現象も興味深い課題であり、これに関する論述は他日を期したい。

注釈

1. 文中の例文はごく一部のインターネットと辞典による例文を除き、すべてコーパスによるものであり、具体的な出典が（　）にある。インターネットによる例文の検索日は 2009 年 12 月 3 日である。
2. 古代中国語の権威辞書である《说文解字》、《康熙字典》と現代中国語の権威辞書《新华字典》による。
3. 本稿で参考する日本語の辞書：広辞苑（1998）、日本国語大辞典（1972）、大辞林（1995）；中国語の辞書：辞海（1999）、辞源（1979）、汉语大词典（1986）。
4. 瀬戸（2007）によれば、中心義を認定するには、主に八つの基準がある。a ほかの意義を理解する上での前提となる。b 具体性（身体性）が高い。c 認知されやすい。d 想起されやすい。e 用法上の制約を受けにくい。f 意義展開の起点（接点）となることが最も多い。g おそらく言語習得の早い段階で獲得される。h 頻度は高いことが多いが、必ずしももっとも頻度が高い意義と一致するわけではない。e と h を除き、上記の特徴の大部分を備えるため、典型的な中心義と見なせる。
5. 古代言語の意義項目は含まれていない。

参考文献

瀬戸賢一. メタファーと多義語の記述[A]. 楠見孝. メタファー研究の最前線[C]. 東京：ひつじ書房, 2007
飛田良文・浅田秀子. 現代形容詞用法辞典[Z].東京：東京堂

出版, 1991.
村井潤一. 言語機能の形成と発達：乳幼児の音声，言語活動の比較発達的研究[M]. 東京：風間書房, 1970
森田良行. 基礎日本語辞典[Z]. 東京：角川書店. 1989
吉村公宏. はじめての認知言語学[M]. 東京：研究社, 2004
陈娜.基于语料库的“deep”和“shen（深）”的认知对比研究[D]. 上海外国語大学修士論文, 2008.
郝玲. 谈反义词“深/浅”的不对称现象及解释[J]. 现代语文, 2006(5). PP20-22
胡琳. 「深い」「浅い」的认知语义研究[D].解放軍外国語学院修士論文, 2007.
孔李茜. 多义范畴“深”“浅”及其在对外汉语教材中的编排策略[D]. 上海師範大学修士論文, 2008.
任永军，滕向农. 空间维度词“深、浅”的认知语义分析[J]. 柳州师专学报, 2001(4). PP23-26
束定芳. 英语“deep”与汉语“深”的概念化对比[R]. 第六回中国認知言語学シンポジウム, 2009.
王红娟. 空间维度词“深”“浅”的认知诠释[J]. 科技信息, 2006(11), P159
徐莲.汉日语“深”的认知语义分析[R]. 第一回中国語日本語対照言語学シンポジウム, 2009.

じょ　れん／北京外国語大学北京日本学研究センター　日本言語コース博士後期課程 2 年
お茶の水女子大学　人間文化創成科学研究科　研究生